

大阪市被保護精神障がい者等地域移行推進検討会議
(令和5年度 第1回 全体会議) 議事要旨

1 開催日時

令和5年10月30日(月) 15時30分～17時00分

2 開催場所

大阪市役所2階 会議室

3 出席者

(委員) 栄座長、堤委員、西浦委員、矢島委員、山本委員

(大阪市福祉局保護課) 三方生活保護調査担当課長、坂田生活保護適正化担当課長代理、
山口保護課施設担当課長代理、岩谷係長、瀬川、小林、半田

4 議題

- (1) 大阪市被保護精神障がい者等地域移行支援事業について
- (2) 長期入院患者の状況
- (3) 当事業の実績報告について
- (4) 当事業における課題に対する取組みの報告について
- (5) 個別支援の報告について
- (6) 退院に結び付いた事例の報告について

5 議事要旨

事務局が地域移行支援事業の取組み(支援実績、退院事例等)を報告し、委員から意見が出された。主な意見は次のとおり。

- ・ 若い世代のソーシャルワーカーでは要介護の部分まで思慮が及ばない可能性があり、病院の体制とケースワーカーとの情報交換がうまくできておらずケースへの支援の在り方が見えなくなっているのではないか。
- ・ 入院期間が5年を超えると退院理由のトップは死亡退院であり、3人に1人は死亡退院であったと令和2年度の精神科病院の患者状況が厚労省から公表された。可能な限り早く支援を開始し、引き続き粘り強く対応してもらいたい。
- ・ 3年間コロナ禍の中で、支援員の努力もあり少数かもしれないが道筋ができたと思う。全国的にも保護課が退院支援の事業を持つことが稀な中で、ブラッシュアップしながら事業を進めていただいたことは有り難い。
- ・ 立ち上げより3年間はコロナ禍と重なり支援者数等が伸びなかったが、令和5年度か

らは訪問数や面談数も増え、支援員の活動も活発になっており違う展開も期待している。

- ・ 課題に対する個別のマネジメントも必要であるが、病院側にも個別の課題に対しどのような方策があるか、共に考えて貰える土台作りも必要である。
- ・ 遠方の病院に入院となったケースについては、大阪府や堺市でも同様の課題があると思われる。大阪府や堺市との会議の場があれば問題提起してみてもどうか。

以上